

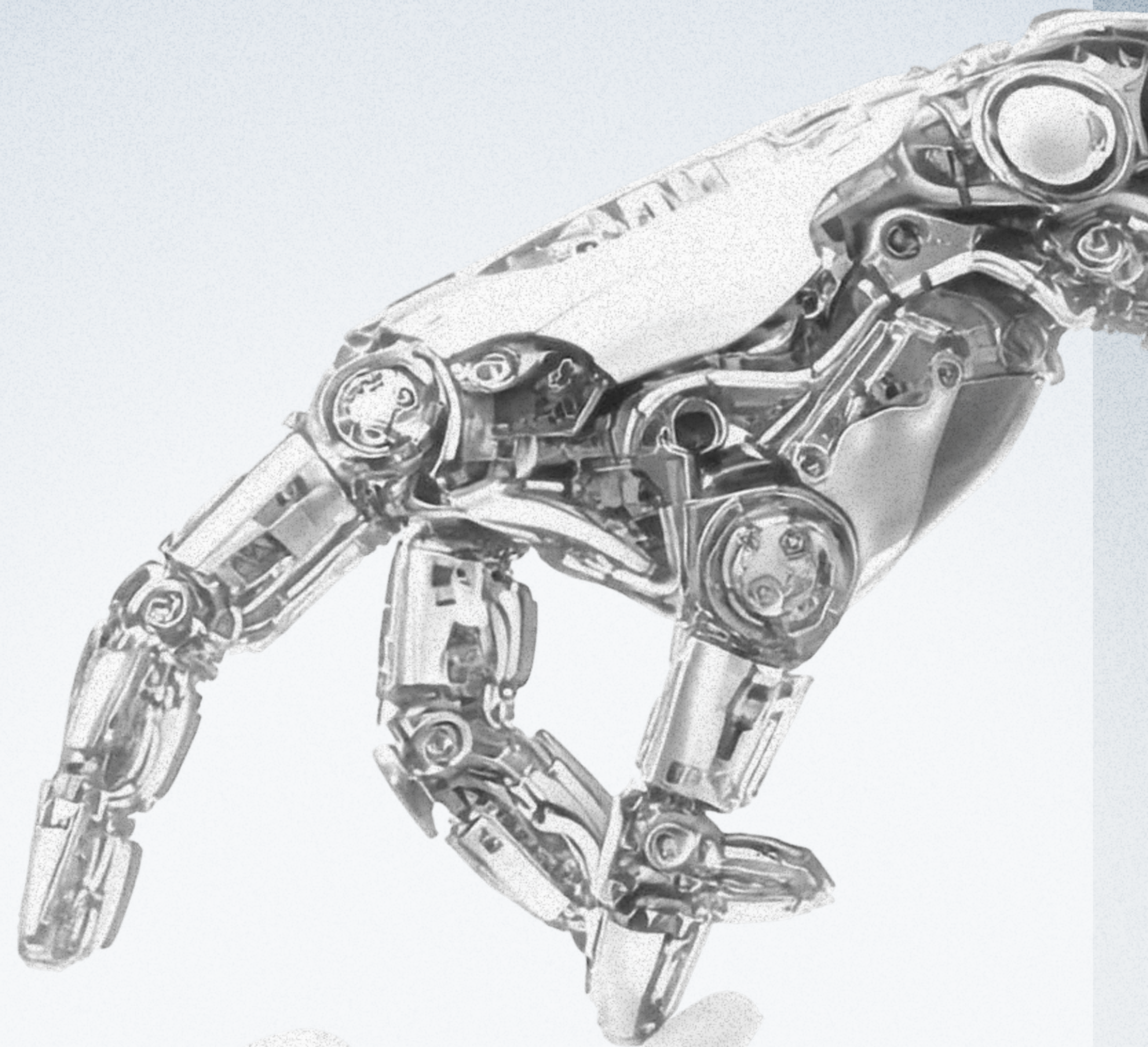
DIVX

新規事業開発〈PoC〉の

✓ 成功シナリオ

— 失敗シナリオ

「技術実証」で終わらない、「市場実証」になるMVP開発とは



目次

新規事業開発〈PoC〉の



成功シナリオ

☐ 失敗シナリオ

P.03 01. MVP開発とは？

- ・ 最短ルートで市場を掴む開発サイクル
- ・ プロダクト開発を成功に導く秘訣は「素早い判断」
- ・ なぜ、いまMVP開発が必要なのか？
- ・ Speed — 迅速な市場投入
- ・ Focus — 本質への集中
- ・ Safety — 安全な投資判断
- ・ MVP開発を活用すべき状況 3 選

P.11 02. PoCで開発が“STOP”する理由

- ・ シナリオで見る失敗/成功パターン
- ・ UX設計なし vs UX設計あり
- ・ UX設計は市場価値の設計

P.15 03. “3か月で意思決定” できた事例

- ・ 背景と課題(Why)
- ・ 提供内容(How)
- ・ 成果(Result)
- ・ “3か月で意思決定”その後

P.20 04. DIVXがMVP開発で選ばれる理由

P.28 05. 開発実績

P.33 06. DIVXについて

P.37 07. サービスご利用の流れ〈無料相談会〉

01. MVP開発とは？

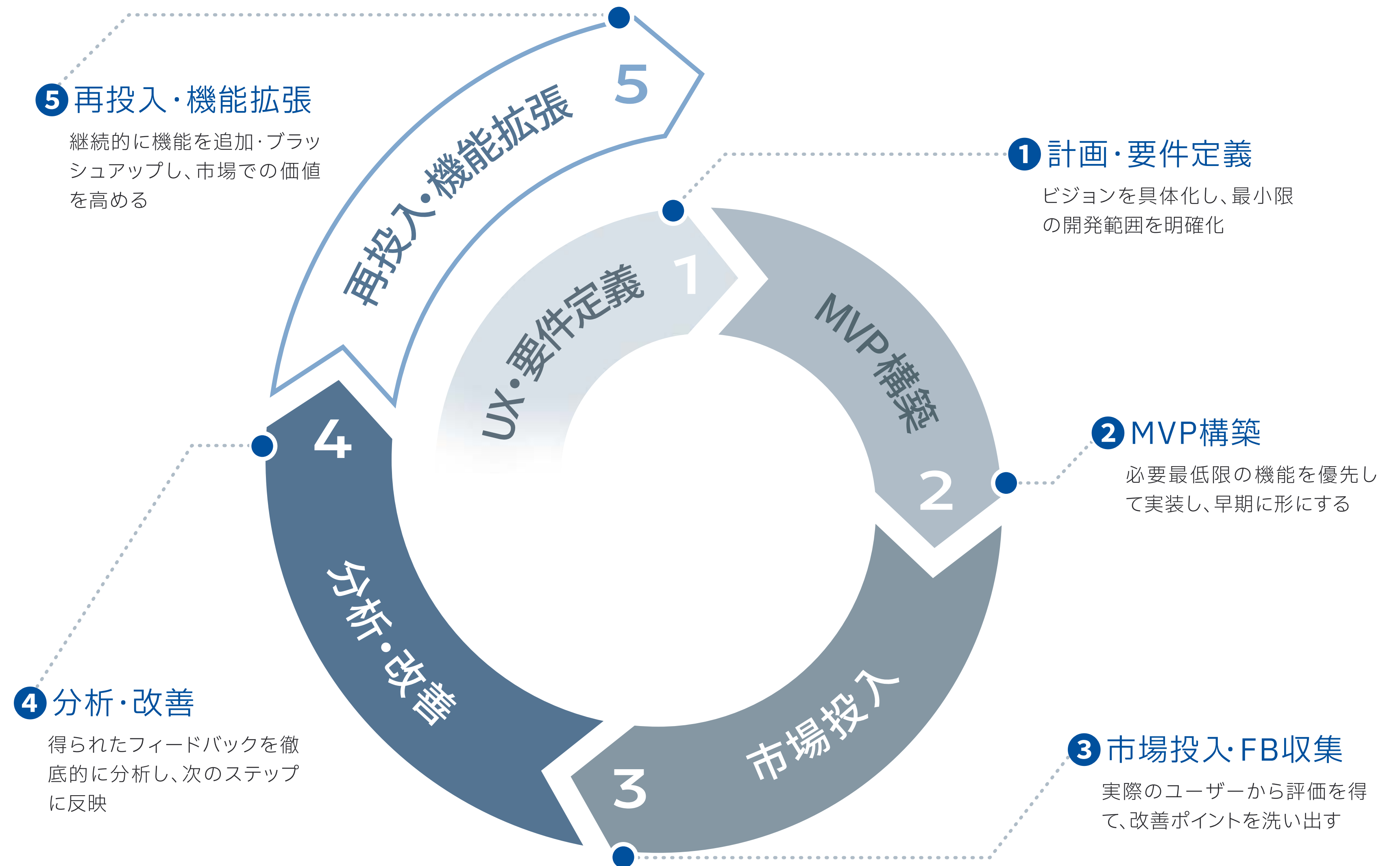
技術検証を短期で進めたい企業様に最適です。
最小限の機能で、最大限の価値を生む開発手法です。



最短ルートで 市場を掴む 開発サイクル

スピード・効率・リスク管理を同時に実現することで、製品の成功確度を飛躍的に高めるのがMVP開発の真価です。

MVP開発は競争力強化に不可欠なアプローチといえます。



プロダクト開発を 成功に導く秘訣は 「素早い判断」

市場での評価を受けるための
短期間での効率的な開発手法
であるため、効果を最大化する
には最小予算ですばやく判断
することが重要です。



なぜ、いま MVP開発が 必要なのか?

MVP開発が持つ強みを理解し、競争優位性を確実に掴むための「3つのメリット」を解説します。

メリットとデメリットから、検討中のプロジェクトにマッチするかを判断する必要があります。

迅速な市場投入
Speed

競合をリードする
「タイミング」

本当に価値ある
機能を見極める

本質への集中
Focus

安全な投資判断
Safety

リスクを最小限に抑え、
リソースを守る

迅速な市場投入

Speed

ビジネス環境が激変するいま、リリースのタイミングを逃せば市場の主導権を奪われるリスクが高まります。

短期間で「必要最低限の機能」を先行リリースするMVP開発なら、競合より早くユーザーの手元に製品を届けられ、タイミング勝負の勝ち筋を確保できます。

メリット

競合をリードする「タイミング」

スピーディーに進捗できる

最速で社内評価・市場評価を受けられるため、競合より先にプロダクトを出せる可能性が高まります。

社内意思決定にインパクトを与える

「動くもの」を早期に示せると、具体的な議論が進めやすくなり、社内の合意形成や意思決定がスピードアップします。

懸念点

完成度が低い状態で判断されてしまう場合がある？早期リリースのため、全体完成度が不十分な段階で評価されてしまいませんか？

調整ポイント

リリース前に最低限の品質保証を行い、コア機能の価値をわかりやすく伝える工夫をすることで、ネガティブな印象を最小化できます。

本質への集中

Focus

最初からすべての機能を盛り込むのではなく、まずは市場の声を聞きながら「必要な部分だけ」を絞り込むのがMVP開発の基本姿勢です。

ユーザーの反応をもとに要件を柔軟に修正することで、リソースを有効活用し、真に求められる機能を洗練させることができます。

メリット

本当に価値ある機能を見極める

最小限の実装で
過大要求を排除できる

早期リリースを優先することで「本当に必要な機能は何か」が浮き彫りになり、余計な仕様を自然に削ぎ落とせます。

市場のフィードバックを
取り入れやすい

核となる機能だけを先に公開するため、どこに価値があるのかを正確に把握しやすく、改善の方向性を明確にできます。

懸念点

複雑な開発要件に不向きなのは？
コア機能が絞り込めない巨大なサービスの場合
はどうなりますか？

調整ポイント

機能を段階的にリリースするなど、複数のMVP
を分割して開発すれば、大規模プロジェクトでも
徐々に価値を検証可能です。

安全な投資判断

Safety

大きな投資を行う前に、MVPで市場適合性を早期検証。

不要な機能や的外れな仕様にリソースを割かずに済み、開発リスクを大幅に減らせます。

必要とわかってから本格拡張に踏み切れるので、予算や時間を最適に使えます。

メリット

リスクを最小限に抑え、リソースを守る

投資効果を最大化できる可能性

すばやくリリースしてリスクを最小化しつつ、改善を繰り返すことで、結果的に投資対効果を高められます。

コア機能から実装することで無駄を減らせる

不要な機能や大規模リソース投入を避け、必要に応じて開発範囲を後から拡張することで、失敗コストを抑えられます。

MVP開発を 活用すべき 状況3選

MVP開発のメリットを最大化できるシチュエーションとして、代表的な3つの状況を紹介します。

「MVP開発パック」では、こうした状況に最適なサービスを提供します。

1



市場ニーズをとらえ、強力な競合企業に勝つため

β版としての機能検討とフィードバック収集、分析に注力し、相手に先んじて機能提供を開始しつつ、UX/UIのチューニング等を丁寧に進めます。先進性とユーザー志向をアピールすることにも繋がります。

2



これまでにない新規サービスを立ち上げるため

まず、社内意思決定と予算獲得が必要です。この検討にインパクトを与えるモックアップ、プロトタイプ of 構築に注目が集まっています。さらに、実現可能性調査を進めるための開発を担うことに繋がります。

3



大規模・長期開発のリスクを軽減するため

見通しが悪い大規模開発案件において、初期計画の重要性が高まっています。基幹データの取引先連携など、業務上の重要モジュールについてコア部分を先行開発・検証することがプロジェクトリスク軽減に繋がります。

02. PoCで開発が“STOP”する理由

誰のどのような課題に対して、どのような価値を提供するのかという「ユーザー起点の仮説」が存在しなければ、評価軸が曖昧になり、成果が判断できないまま開発が止まります。



シナリオで見る 失敗/成功 パターン

エンジニアは「コードは動く」と胸を張り、経営層は「ROIが見えない」と首をひねる…。このギャップが生まれる根本原因を紐解きます。

失敗パターン

仕様書が“ほしいもののリスト”と化し、ユーザー行動を無視したままPoCを通過——その瞬間に失敗フラグは立っています。

1

要件決定

機能寄せ集め／担当者の声を鵜呑み

要件変更が多発し、開発が混乱

2

PoC実装

技術PoC“だけ”成功

胎動期で早くもチーム疲弊

3

β 検証停止

現場マニュアルで穴埋め→属人化

学習コスト増でユーザーの負担増加

4

パッチワーク改修

後付け改修で負債雪だるま

コスト肥大・納期遅延

5

死の谷

Go/NoGo判断保留→凍結

投資回収不能となる危険性

成功パターン

“ユーザーを起点に要件を組む”ことで、PoCは「学習装置」へ進化します。

1

現場リサーチ

観察+インタビューで課題を定量・定性分析

課題をスコア化し、ブレない指針が決定

2

UX設計+要件決定

ジャーニー/ジョブ→UX→機能順展開

不要機能を削減

3

MVP実装

コア体験+KPI計測でβ公開(改善サイクル)

ユーザー定着率の向上

4

学習ループ

行動データ→要件再定義(データドリブン)

追加開発の判断の正確性が向上

5

本開発

非機能(監視・セキュリティ)後段追加

本開発のスピーディーな開始

UX設計なし vs UX設計あり

UX設計ありの開発は、要件ブレの減少・本開発移行率の向上・長期的なコスト削減など、数値面でもUX設計なしを大きく上回る結果を示しています。

UX設計なし	指標	UX設計あり
◎ UI 仕様を詰めずに開発を始めるため、着手からリリースまでのスピードは出しやすい。	初期 リリース速度	○ UXを事前設計する分、着手タイミングはやや後ろ倒しになるが、後工程の修正が少なく結果的に全体期間を短縮しやすい。
△ 想定ユーザーの行動や課題を深掘りしないため、リリース後に「使いにくい・伝わらない」といったギャップが起こり得る。	市場適合度	◎ ユーザー調査・プロトタイプテストでニーズと操作性を確認済み。初期版でも市場要求とのズレが小さい。
△ ユーザーごとに使用感が異なり、不満の声が表面化しやすい。	顧客満足度	◎ タッチポイントごとに UX を設計しているため、利用体験が一貫し評価が高まりやすい。
× リリース後に UI 大幅改修や機能追加が必要となるケースが多く、時間と費用が膨らむ。	再設計コスト	○ 要件定義時に情報設計を済ませているため、追加開発は局所的な調整で済みやすい。
△ ユーザー不満・仕様変更が後工程に集中し、開発・QA チームの負荷が一時的に上昇する。	開発・運用 チーム負荷	○ 前工程で課題を潰しているため、開発後半の手戻りが少なく負荷が平準化される。

UX設計は 市場価値の設計

SaaSなどでは拾えない現場固有の課題を解くため、DIVX は4工程で価値を設計します。

インタビュー / 現場観察

現場の“生の声”と業務フローを把握し、真のボトルネックを定量・定性の両面で特定する

ユーザーや担当者へインタビューし、実際の作業を横で観察。数字だけでは見えない「手戻り」「非公式ツール」「口頭連携」などを洗い出し、後工程の設計に活かすための一次情報を収集します。

UXシナリオ&プロトタイプ

理想的なユーザー体験を具体の画面遷移・ストーリーとして可視化し、早期テストを可能にする

カスタマージャーニーを時間軸に沿って描き、Figma等で高忠実度なクリック可能プロトタイプを制作。ステークホルダーや実ユーザーに触ってもらい、操作感・用語・導線を高速に検証します。

ペルソナ・ジョブ整理

ユーザー像と達成すべき“仕事（ジョブ）”を言語化し、課題の優先度を明確にする

収集した情報をもとに代表ペルソナを作成し「～したい」「～に困っている」というジョブをリスト化。インパクト×実現難易度でマッピングし、後続ステップで迷わない意思決定の軸を作ります。

要件定義 & 優先度決定

学習したインサイトを“実装すべき機能”へ落とし込み、フェーズ分割と開発順序を確定する

KPIに直結するコア機能と、後回しにできる拡張機能を「MoSCoW（Must / Should / Could / Won't）」で区分。MVPで取り組む範囲を明快にし、見積り精度とリリース速度を引き上げます。

03 “3か月で意思決定”できた事例

- 新規B2Bサービスを3か月で“動く証拠”に構築。社内意思決定を一気に加速させた好例です。



03. “3か月で意思決定” できた事例

とにかく触れる、動くものをいち早くリリースして、
実際のユーザーに使ってもらい、

意見を吸い上げながら需要のある
サービス開発を行いたい

背景と課題(Why)

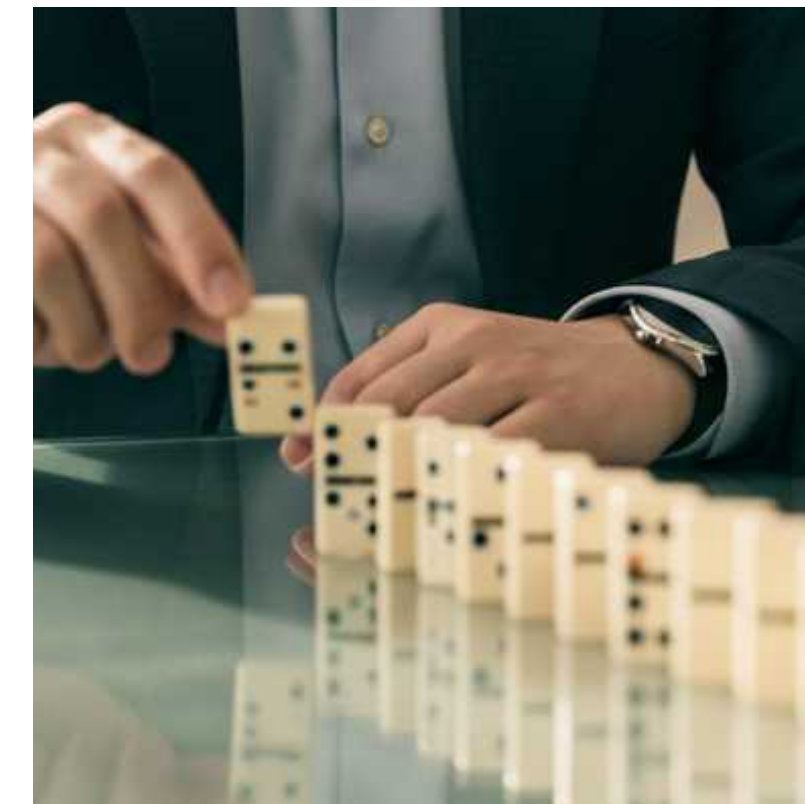
本件のお客様では、B2B向け
Webサービスの立ち上げにお
いて以下のジレンマで停滞して
いるという課題がありました。

インパクト



社内意思決定を動かす
“最初の実物” が必要

投資リスク



長期開発を確定させる
にはリスクが高い

スピード

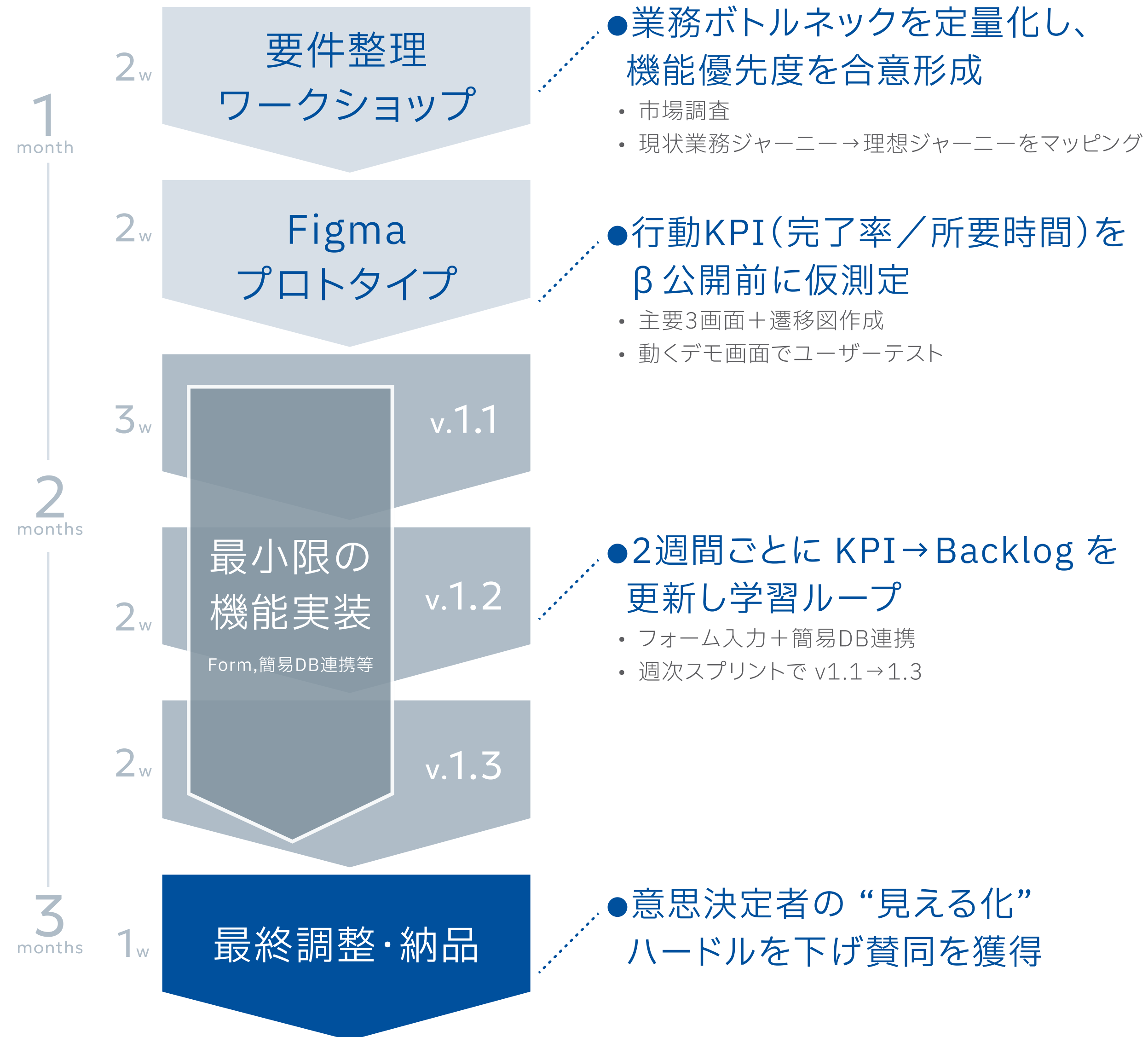


ユーザー検証までを高
速で回す体験が欲しい

提供内容(How)

弊社MVP開発パックを通じ、Phase1として3ヶ月のプロジェクトを策定しました。

UX起点で価値仮説を整理し、検証可能な最小プロダクトを開発・提供しました。



アジャイル伴走

経営層も行動データで判断
→追加投資の意思決定を加速

- ・Slack／Notionで透明化

成果(Result)

UX起点の迅速試作で実証データと指標を可視化し、開発のブレを抑制。わずか3か月で経営判断に至りました。

インパクトを最大化



経営層の判断を動かす“実物”を3週間で提示。社内プレゼンに耐えるプロトタイプが、意思決定の突破口に。

投資リスクを回避



MVPで市場適合性を可視化し、実証データをもとに次フェーズへ。不確実性を排除し、長期投資に踏み出す判断材料を明確化。

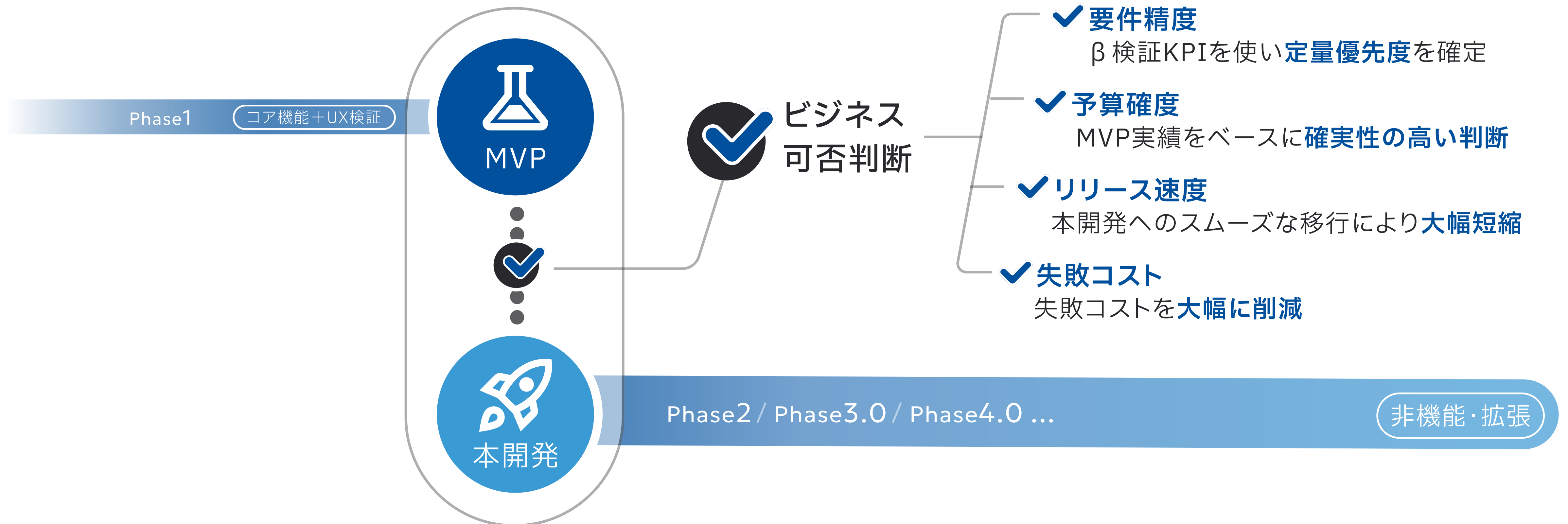
スピードを加速



週次スプリントでユーザー検証と改善を高速ループ。試作・実証・判断のサイクルを最短1週間単位で回せる体制を構築。

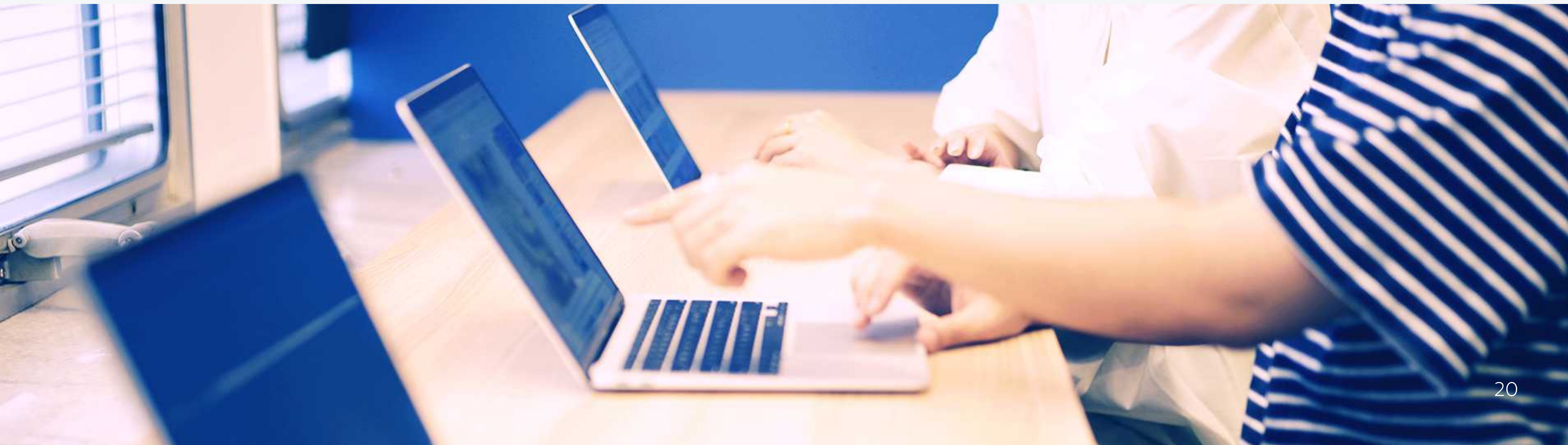
“3か月で意思決定”その後 —— 本開発の精度とスピードが大幅向上

3か月のMVP検証で“作るべきもの”を鮮明にし、経営判断まで一気に到達。その後の本開発は、要件ブレのない高精度な設計と、手戻りを極小化した高速スプリントで進行しています。



04 DIVXがMVP開発で選ばれる理由

- 組込型GAIエンジン "GAI エンジン" & 日本国内完結体制の安心品質



「技術実証」で終わらない、「市場実証」になる開発を

DIVXの『MVP開発パック』は、ユーザーの声を構造化し、次の意思決定につながる“市場実証”までを支援します。



AIで始める、ムダのない検証

独自GAIエンジンや外部LLMを柔軟に活用し、要件の可視化と検証コストの最小化を同時に実現します。

国内完結×セキュリティ対応

Pマークを取得し、個人情報を適切に管理しています。社内稟議にも通しやすい体制で、大手企業からの信頼も獲得しています。

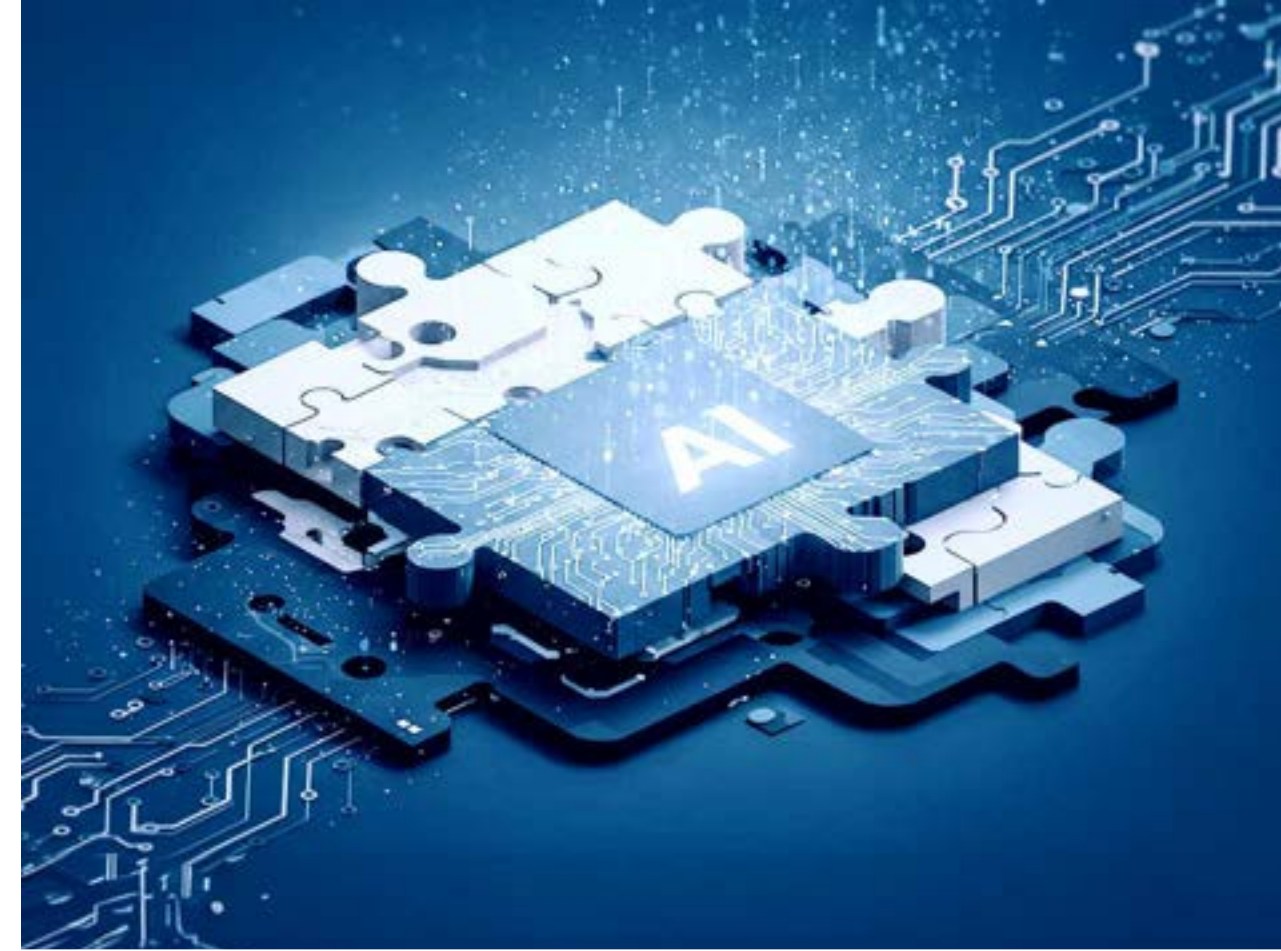
柔軟リソースで伴走支援

プロジェクトフェーズに応じて人材を入れ替えつつ、月額コストは据え置き。スピードと効率を両立する進行体制です。

GAI ENGINE

組込型“GAIエンジン”

AI 開発は「フルスクラッチ」から“組み合わせる”時代へ。GAI エンジンなら、開発期間とコストを劇的に削減し、貴社の業務に最適化したAI を最短で導入できます。



柔軟なカスタマイズ性

画像認識・自然言語・予測分析など用途に応じ最適な AI を自由に構築。既存プロセスにもシームレスに統合可能。



圧倒的なスピード感

PoC から実運用開始までの期間を最短化し、ビジネスの迅速な意思決定を後押しします。



豊富な導入実績

製造・サービス・医療など多業種で活用。安定した運用基盤が“安心感”を提供します。

GAI ENGINE

品質・スピード・成功率UP

開発品質を均質化し、工数を半減。空いたリソースを検証に再投資して、仮説検証や本開発に向けて品質を高めるための時間と機会を生み出します。

1

早期PoCフィードバックによる投資対効果の最大化

完成度の高いAIオーケストレーション基盤を標準実装済みのGAIエンジンなら、導入初期から即座にPoCを開始可能。通常は開発の後半でしか得られないフィードバックを前倒しで収集できるため、課題の抽出・改善が早まり、PoC失敗のリスクを大幅に軽減します。

2

開発リードタイム短縮で市場投入スピードを加速

「GAIエンジン」によりPoC期間が大幅に短縮されることで、後続の本開発・テスト工程の確保が可能になります。時間に余裕ができる分、テスト密度が高まり品質も安定。競合より早くリリースしつつ、不具合リスクは下げるという“攻めと守り”の両立が可能になります。

3

将来を見据えた拡張性 — 柔軟な外部システム連携

「GAIエンジン」は、ERP・CRM・チャットツール・データベースなどとの多様な連携が可能。PoCや初期開発では必要なかった機能や他部門への展開も、コードを組み替えることなく拡張できるため、長期運用・スケール戦略にも耐えられる構造です。将来的なTCO最適化や全社展開を見据える企業にとって、有利な選択肢となります。

金融

本人確認書類抽出AI

顧客対応

インテリジェントFAQボット

医療

診療サマリー自動生成AI

人事

オンボーディングQAアシスタント

GAI
ENGINE

課題に合わせて、多種多様な
AI開発が可能です。

業種ごとに参考例をご紹介します。

教育

採点支援AI

物流

動的ルート最適化サジェストAI

法務

契約レビューAI

製造／プラント

保守マニュアル検索アシスタント

AIと共創する開発

AIを単なる道具ではなく〈共進化するパートナー〉と捉え、企画・設計から運用・保守に至るまで全開発フローに深く組み込みます。

DIVXは、人間の直感とAIの演算力を重ね合わせて“共鳴”を設計し、ひらめきを最短距離でプロダクトへ昇華します。

要件定義	ユーザーヒアリング、市場調査、非機能要件整理 等
基本設計	情報アーキテクチャ、UI ワイヤフレーム、技術スタック選定 等
詳細設計	DB 設計、API 設計、セキュリティ設計 等
デザイン	UIデザイン、グラフィックデザイン 等
実装	コード自動生成＋アシスト、CI/CD 等
テスト	自動回帰、UX 評価、負荷テスト 等
リリース	本番環境デプロイ、監視設定、初期フィードバック収集 等

全方位で 伴走支援

それぞれの分野で専門チームがいるため、一気通貫でシームレスな支援が可能です。プロジェクト毎に最適なチームを編成し課題解決を行います。

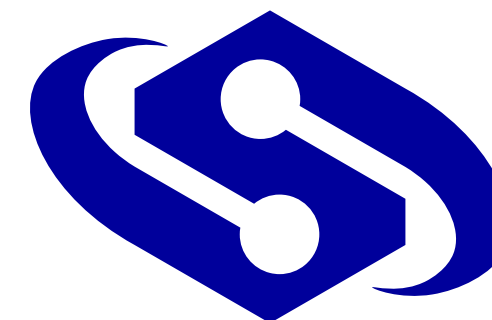
月額予算内で最適な人材を適切なタイミングでアサインできます。



取得資格・所属団体

Pマーク準拠の 情報管理体制

エンタープライズ水準の情報セキュリティを両立し、貴社の新規事業を安心して拡大できる基盤を提供しています。



023-0004-20

「Webアプリケーション診断」が
「情報セキュリティサービス
マーク」を取得



「AWS セレクトティアサービ
スパートナー」の認定を取得



17004461

「プライバシーマーク」を取得



「一般社団法人 生成AI活用普及
協会 シニアパートナー」に所属

05 開発実績

- DIVXは、幅広い業界のお客様と協力し、AIを活用したソリューションを提供してきました。

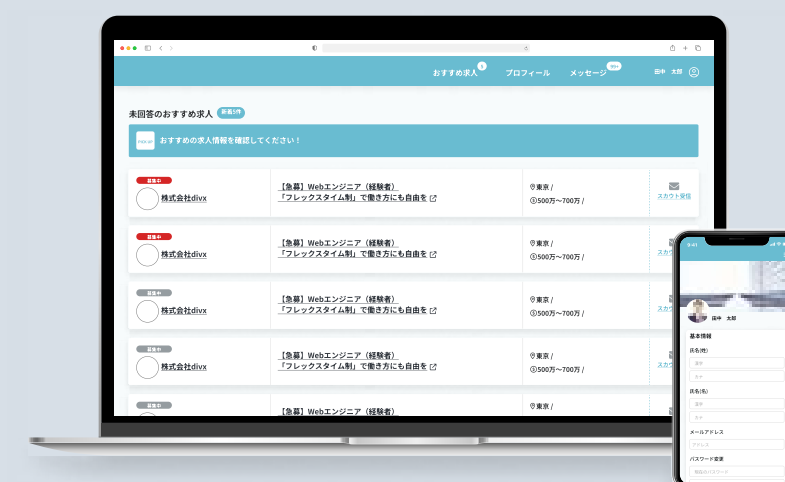
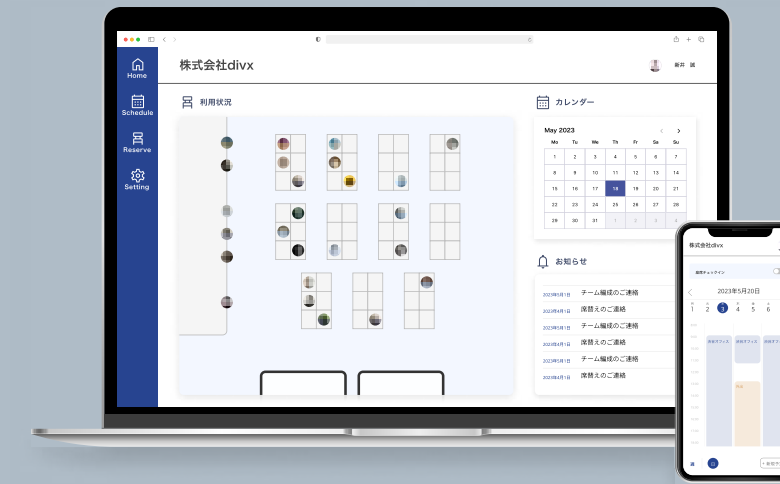
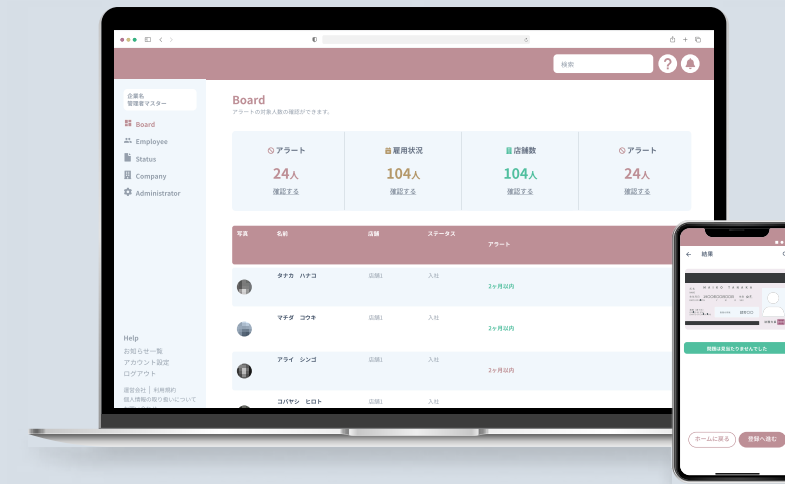


あらゆる プロジェクトを 形にできる理由

DIVXはスタートアップから大手上場企業まで、多種多様な開発を支援してきました。

MVP開発で終わらせず、本開発・運用まで継続する案件が多いことも特長です。

クライアント社内チームと密に連携し、同じゴールをめざす体制が成果を生みます。



Diversity

多種多様な開発実績

製造、教育、金融、旅行など、業界を問わず実績を蓄積

Continuity

途切れない開発サイクル

MVP検証後も本開発・運用へシームレスに移行し、長期的に価値を拡大

Collaboration

共創型チーム編成

クライアントの社内チームとDIVXメンバーが一体となり、目標達成まで並走

開発実績

AI・チャットボット／自動化

自動添削アプリ開発

生成AIで答案自動添削

AI質問対応システム開発

受講生の質問を AI で回答

RAGチャットボット開発

社内ドキュメント検索＋自動応答

学習・教育支援システム

教員向け授業案作成支援

RAGで授業プラン効率化

カリキュラムシステム開発

カリキュラム閲覧・学習

進捗管理システム開発

受講生の学習進捗管理

業務プロセス管理・BPR

見積管理システム開発

建設工事情報・見積書生成

見積・工程管理システム開発

Excel運用のシステム化

価格算出要件定義

多要素を踏まえた自動価格設定

派遣管理システム開発

LINE APIでやり取り簡略化

開発実績

顧客・店舗・HR管理

顧客管理システム開発

顧客情報一元管理

店舗管理システム開発

従業員管理システム支援

1 on 1ツール開発

面談効率化・可視化

予約・座席・チケット

特急券予約システム開発

予約～インフラ保守まで対応

座席管理システム開発

席予約・スケジュール登録

事前チェックインシステム改修

マイページ・認証機能

Webサイト・ECサイト

Q&Aサイト構築

WordPressカスタマイズ

フロントエンド開発支援

UI/UX改善／短期リソース拡充

Shopifyサイト構築

ECサイト実装

マッチングサイト開発・実装

企業間の仲介

開発実績

データ・API連携 / 既存改修

データ連携(システム間・オンプレ)	システム間・オンプレ連携
銀行API連携支援	Salesforceと銀行API接続
外部システム連携	注文書・在庫をNetSuite接続
過去開発システムの調査・改修	工程段階変更など改修対応
APIバックエンド開発支援	短期バックエンド増強

このほかにも多数の開発事例がございます。
詳細や類似案件のご相談は、お気軽にお問い合わせください。

06 DIVXについて

- 2021年の創業以来、サービス開発を通じて企業や公共機関のDX推進を支援しています。



課題解決型 オーダーメイドAIソリューション

株式会社DIVX(ディブエックス)は、2021年創業の日本国内完全完結型クリエイティブカンパニーです。民間企業から官公庁まで多様なプロジェクトで併走し、課題を解決してきました。

ソフトウェア開発やクラウド構築、セキュリティ診断、DXコンサルティングなど開発の全プロセスでAIを活用。圧倒的なスピードと柔軟性を武器に、お客さまのビジネスやニーズに最適なソリューションを提供しています。

私たちは、ただの「開発会社」ではありません。お客さまと共に走り、共に成長する“ビジネスパートナー”でありたいと考えています。

会社概要

東京本社

〒107-0052
東京都港区赤坂8-4-14
青山タワープレイス6階

大阪拠点

〒541-0053
大阪府大阪市中央区本町4-2-12
ビレッジ大阪8階

名古屋拠点

福岡拠点

霧島ラボ

〒899-5103
鹿児島県霧島市隼人町小浜37-1
Obama Village内

会 社 名	株式会社divx(ディブエックス)	役 員	代表取締役会長	橋本太郎	取締役	久保利人
設 立 日	2021年1月20日		代表取締役社長	物部英嗣	取締役	木村修巳
資 本 金	2,000万円(資本準備金含む)		取締役	石原圭	取締役	押尾英明
事業内容	AI技術を活用したソフトウェア開発およびソリューション提供		取締役	内藤誠	監査役	神谷真紀子

技術責任者の紹介

株式会社divx 代表取締役社長

物部 英嗣 MONOBE Eiji

新卒でエンジニアとしてキャリアをスタートし、その後複数のベンチャーのCEOやCTOを歴任 2021年1月に、AIを活用したDX支援企業として現職の株式会社divxを創業。

2023年3月には生成AIの利用義務化を社内外にいち早く宣言、現在では社内における生成AI利用率は常時9割を超える。

教育に重みをおくブロードメディアグループの一員として、生成AIを活用したエンジニアの育成を行い、デジタル人材不足という社会問題の解決に挑戦をしている。

メディア掲載

- ・ 鹿児島・霧島市の課題解決を支援 DIVX(東京)物部英嗣社長(西日本新聞/2023.11)
- ・ 人的資本を重視したシステム開発事業で人も企業も成長させる DIVX(経済界ウェブ/2023.10)

07. サービスご利用の流れ〈無料相談会〉

ヒアリングを通じて課題の範囲と深度を可視化し、最適なアプローチをご提案します。



ご契約までの流れ

ご相談時点で「要件が固まっていない」「予算感が読めない」という状況でも問題ありません。

ヒアリングを通じて課題の範囲と深度を可視化し、最適なアプローチをご提案します。

1 | お問い合わせ 無料相談フォームから気軽にご連絡ください。

2 | ヒアリング 課題・KPI・ご予算感・技術制約をヒアリングいたします。

3 | 概算と進め方のご提案 概算費用と進行イメージを共有し、提案いたします。

4 | 正式発注 & 契約締結 契約を締結後、DIVXチームを編成します。

5 | キックオフ ゴール・KPI・スプリント方針を確認し、MVP開発をスタートします。

無料相談会のご案内

開発やAI活用について、コンサルタントがご相談に応じます。

「何から始めればいいのかわからない」「社内説得の材料がほしい」など、まだ企画段階の方にも役立つ情報をご提供します。

どうぞお気軽にお申し込みください。

＼まずは情報収集からでも歓迎です／

お気軽にご相談ください。
新規事業の第一歩と一緒にサポートします。

相談形式

形式：オンライン

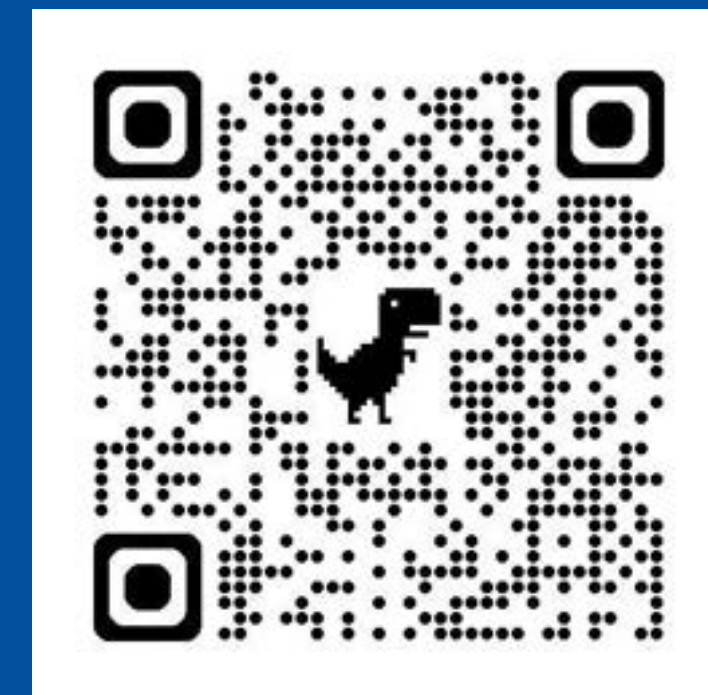
所要時間：30～60分程度

費用：無料

お申し込み方法

こちらの『ご相談・お問い合わせ』フォームより、お気軽にお問い合わせください。折り返し担当者よりご連絡を差し上げます。

🔗 <https://www.divx.co.jp/contact>



本相談会は、事業課題をお持ちの企業さまを対象としたサービスです。
代理店・開発ベンダーさまなどによる**営業目的のお申し込みはご遠慮ください**ますようお願い申し上げます。

D I V X

© 株式会社divx 本資料の無断複製・転載を禁じます。〈更新:2025/6/9〉